倉沢里山を愛する会 会報

ENJOY アリスの丘 風の丘 Farm NEWS LETTER

倉沢里山を愛する会
アリスの丘ファーム
NEWS LETTER No.90
2019年夏号（7月1日発行）
発行責任者　峰岸純夫
編　集　田村はる子

〒191-0033
日野市百草698-6（田村）
TEL/FAX 0425925859
mail: info@alice-fm.info
URL:http://alice-fm.info

里山で美の追求

山　本　慶　子

私が倉沢里山を知ったのは今年の４月でした。元々主人のガーデニングが趣味で、畑を借りて農作業をしたのが４年前になります。今年の４月に借りていた畑をオーナーの方に返却しなければならなくなり、畑を新しく借りたのが、アリスの丘との出会いです。農作業は思いのほか身体が引き締まり、できた野菜はとても美味しく今では主人よりも私がハマっています。里山倉沢では、植物や竹林を整備する活動や、山好きな会員と山歩きをしたりします。私は、畑での農作業、自然保護活動、山歩きを通して、自然の美しさ、素晴らしさを知りました。自然の中にいると、日々の生活のストレスが和らぎ、周囲の人に対して、優しい自分になれます。身体を動かすととても気持ちがいいです。そして何よりアリスの丘・風の丘の方々の自然を愛し、敬う心に感動しました。そして、その後の食事やお酒はとても美味しいです！！私は里山の活動をしてから、お腹が締まり、血糖値が高かったのですが、６月の健康診断では正常値になりました。きっとここでの活動と畑でできる野菜を食べてるおかげだと思います。

そして私は元々女性の美に対して興味があり、時間とお金が許す限り追求してゆきたいのですが、里山で活動されている方々は肌ツヤが良く、綺麗に年を重ねている方ばかりで、私もそうなりたいです。農作業していても、ジェルネイルは落ちないし、トレッキングファッションも可愛くて楽しいです。そして、会の皆はとても良い人ばかりで、各自の畑で作った野菜をおすそ分けしてくれたりします。

私は自然保護活動は初めての体験ですが、草花の名称など親切に教えて頂けます。日々の生活は楽しいことばかりではなく、辛いこともあるけれど、自然を通して、前向きな自分になれるようにしてゆきたいです。

里山の植物誌（88）

チダケサシ（ユキノシタ科）

この植物は、里山に沢山ありますが、6月24日午前の時点では草丈は低いしほっそりとしていて開花しているのは1本もなし。前日真堂が谷戸に蛍を見に行った時、薄暗い中で多数が群生し、水辺のせいか、しっかり成長して開花しており、暗闇でも圧巻的な存在感がありました。

この植物の好む条件にどちらが適しているかなどの程度の差、また湿り気・日照の違いと蛍の水辺環境を変えずに管理されている谷戸と里山の雑木林の管理との違いなどから差が出ているのだと思います。それらの差はあっても、準絶滅危惧種（NT）とは「現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』として上位に移行する要素を有するもの」です。だから、新堂が谷戸も私達の里山も、生息条件を考えて管理しているからこれがあるのです。2016年日野の自然を守る会の植物研究グループの報告書によれば、調査地点が16あるうち約半数にチダケサシは無しなのです。

多年草で根茎は太く、葉は羽状複葉で、7～8月に40～80cmの花茎を直立し、上部に短い側枝をややまばらに出し、多数の淡紅色の花をつけます。柄は長く、小葉は楕円形から倒卵形。花茎の花軸には淡褐色の腺毛（せんもう）が密生し、触ると少し粘る。がく片５、花弁5で線状さじ形、雄しべ10、雌しべ２。

花が咲く頃食用のキノコのチチタケは傷つくと白い乳液が出る茸で、栃木県ではチタケと呼ばれているそうで、チダケサシをちょいと掻いて、堅くて丈夫な花茎に刺す。だからチチタケ刺し。多数の茸が刺せるので持ち帰って調理。それでこの名があるようです。ビニール袋など不要。いいねえ。　（峰岸立枝）

会の新しい運営体制について

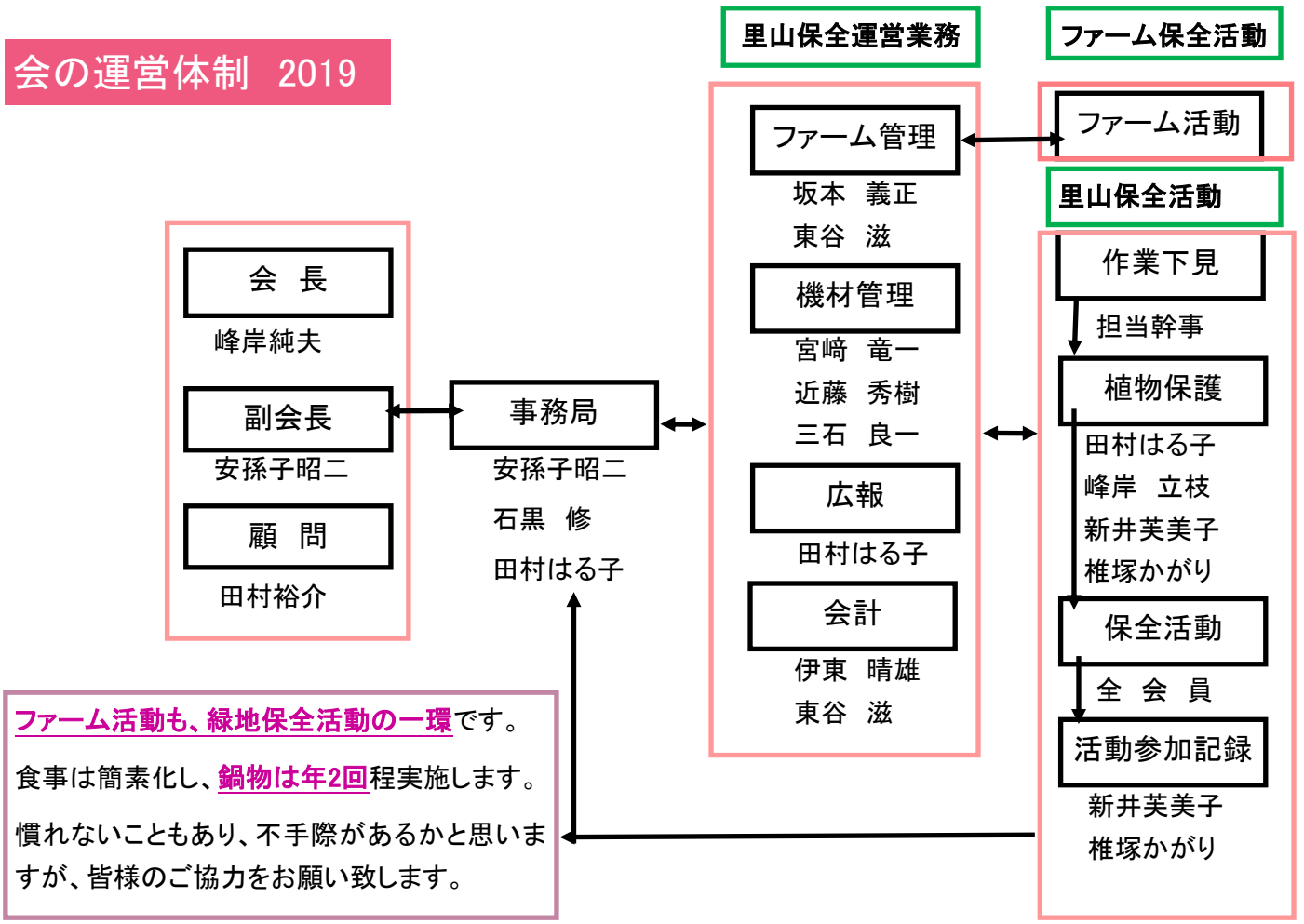
新事務局　石黒　修

会の母体である「レジャー農園アリスの丘・風の丘」を経て、2001年5月に現在の「倉沢里山を愛する会」が組織され、来年で20周年を迎えようとしており、会員数も2019年4月現在で110家族、204名となっています。此の間、会の企画・運営のほとんどは峰岸会長と田村ご夫妻が担ってこられましたが、事務局長を担ってこられた田村裕介さんに健康上の問題が生じ、今年度より幹事で役割を分担する事となりました。

裕介さんが担ってこられた業務は多種多様、繁雑な事を改めて知る事となりましたが、今回の件を踏まえ、担当が交代しても会の運営に支障が出ないように各担当業務毎に複数人員を配置し、会長も補佐として副会長を設け事務局と兼務で安孫子さんになって頂く事となりました。私も微力ながら事務局を担当させて頂く事となりましたが、急なこともあり事務局の業務内容を十分把握しているとは云えず、すぐには裕介さんが行なって来たようには行かずに、皆さまにご迷惑を掛ける事になるかも知れませんがご容赦ください。

日頃は会の運営にご協力ありがとうございます。今後ともご協力よろしくお願いします。

会の運営体制　2019



ファーム活動も、緑地保全活動の一環です。

食事は簡素化し、鍋物は年2回程実施します。

慣れないこともあり、不手際があるかと思いますが、皆様のご協力をお願い致します。

充実した時を共有して

前事務局長　田村　裕介

前事務局の田村裕介は約２０年にわたりこの活動に携わってきましたが、この春以降体調を崩し、今後従来のような形で会をリードしていくことが出来なくなりました。この間、幹事はじめ多くの皆様にご迷惑をお掛けし、ご心配を頂きまたましたこと、お詫びと共に厚くお礼申し上げます。今後会の活動に従来のように直接的に関与・参画することは困難となりました。これを受けて、この際従来の事務局の体制をより開かれた、会員みんなの参加による分業体制とする方向で、幹事会で協議して頂いた結果、組織と役割分担を　新たに明確化し、それぞれについて責任を持って頂くこととなりました。従来事務局に一元化されていた様々な情報を、多くの人で共有する必要があるため、コミュニケーションと連携プレーが今まで以上に重要になります。軌道に乗るまでは多少の混乱や手違いもあろうかと思いますが、「３人寄れば文殊の知恵」が上手く機能して「倉沢里山を愛する会」がさらに充実していくことを期待しています。これは頭の中でイメージするよりなかなか簡単なことではありませんが、幹事の皆様にはとても積極的にご協力を頂いており、すでにいくつかの課題もクリアされつつあります。幹事以外の一般会員の皆様の一部にも、すでに様々な形でご支援を頂いており感謝しています。むしろ、この私の不調を機に、私自身の長年にわたる懸案であった、この会をより組織的に、永続的に維持・発展させていくということが、実現に向け一歩踏み出せたことは会全体にとって幸運なことであったとも考えています。

幸い、今まで一緒にやってきた田村はる子は過去の経緯や外部とのパイプもしっかり把握しており、植物にも明るく、かつ丈夫で元気ですので、今後も事務局の一員としてお手伝いさせて頂きますので、全ての会員の皆様のご理解とご協力を是非よろしくお願い致します。

倉沢・百草の緑地保全と地域のコミュニケーションの場という両輪は、今後もしっかり守っていけると信じています。私自身は、一会員として協力はできる限り惜しまないつもりですので、今後も皆様と一緒に、日野市内で最も有意義で活発なこの会を、さらに盛り上げて行けたらと願っています。

会員はもちろん、日野市の関係者の皆様、今までこの活動に関わって頂いたすべての方々に、お礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

里山は永遠に

副会長兼事務局　安孫子 昭二

「倉沢里山を愛する会」は来年20周年を迎えます。発足のころは峰岸会長ご夫妻も田村さんご夫妻も若く希望に満ちていました。かくいう私もまだ現役でしたから、日々の業務にストレスを抱えながら、この菜園での野菜作りや、操作を覚えた刈払機で除草活動に汗を流し、あるいは仲間うちとの語らいで解消させていました。

その傾向は今に変わりはありませんが、体調を崩された裕介さんから膨大な事務量が幹事たちに分有されて初めて、如何に田村さんご夫妻が重荷を背負ってこられたかを知ったのです。10周年記念誌『緑の風は永遠に』を見開きますと、ご夫妻には、この里山の保持に共感してくれる賛同者への感謝の意識が強くうかがえます。しかし賛同者もまた、里山の保全活動の一員であることを誇りとしてきたのです。

私もこの先何年続けられるかは疑問ですが、この心意気が若い世代にバトンタッチされながら、里山の自然環境が何時までも保持されるよう願っています。

「倉沢里山を愛する会」の体制と軽自動車の扱いについて

会長　峰岸　純夫

梅雨入りとなり、紫陽花がしっとりと色鮮やかな候となりました。日頃は私たち倉沢里山を愛する会の活動にご協力を頂き、心から御礼申し上げます。私たちが2000年に活動を開始してから、来年で20周年を迎えようとしています。みなさまご承知のように、この間の活動の拠点は田村裕介・はる子御夫妻が担ってこられた事務局にあり、殆どの業務は御夫妻の企画・運営の下に、私たちは描かれたシナリオに沿って保全活動に従事し、ファーム数も会員数も拡充してきました。

その事務局長を担ってこられた裕介さんに健康上の問題が生じて、本年度からは２Pのように幹事が役割を分担しています。その業務内容を引き継いでみますと、何と多種多様で繁雑かつ時間的にも縛られることかと痛感しています。

今、発足10周年記念誌『緑の風は永遠に』を開いて、はる子さんの序文、裕介さんのあとがきを読み直してみますと、倉沢里山の環境保全に掛けるお二人の心情が、ともすれば私たち会員が活動しやすいためには自己犠牲をいとわない考えであったことを知るのです。

この度、はる子さんから、裕介さんがさらに体調をくずされて運転ができなくなったことから、所有してきた2台目の軽自動車を手放したい旨の申出がありました。この軽自動車は里山保全活動に欠かせない必須のアイテムですが、これまで無償のまま使用させてもらってきたのです。このことを私たちは肝に銘じる必要があります。

そこで幹事会で協議し、向後は、名義（田村はる子）はそのままに、軽自動車の保険料・車検料・燃料代等の維持管理費の一切は会の負担とし、従前通り使用させてもらうことになりました。

副会長の安孫子さん・会長の峰岸さん

会員のみなさまには、この機会にご報告かたがた、よろしくご賢察くださいますようお願いいたします。

４～６月の主な活動

4/20（土）　第一緑地にて、椅子用丸太の玉切り、タラの丘、帰化植物の手抜き（セリバヒエンソウ）椎茸の駒打ち、倉庫屋根修理（トン汁・72名参加）

5/11（土）　万蔵院台緑地の外来種植物（ハルジオン）の手抜き、長久保緑地、第一緑地、赤道の機械刈り（ミネストローネ・55名参加）

5/21（火）　第一緑地・タラの丘機械刈り、第二緑地手刈り、倉庫修理（菓子パン・53名参加）

6/8（土）　長久保・六地蔵緑地の機械刈り、粗朶柵第一緑地崖地手刈り（菓子パン・79名参加）

6/19（水）北緑地東、赤道機械刈り、長久保緑地のクズ取り、倉庫床修理（菓子パン・35名）

７～９月の主な活動予定

各回の持物：バンダナ、手袋、スタンプ帳、飲料水

各回とも１０：００　炭焼小屋広場集合　雨天時翌日（緑地の状況により内容を変更する事があります）

7月14日（日）　万蔵院台・長久保緑地の機械刈り、植物保護区の手刈り

8月17日（土）　万蔵院台・長久保緑地栗林の機械刈り他

9月15日（日）　第一緑地機械刈り、第一崖地手刈り

☆☆☆☆☆　事務局から　☆☆☆☆☆

☆4月より会は新体制に入りました。一丸となって、楽しく緑地保全して行きましょう。

☆万蔵院台の物置が老朽化し、雨漏りが起きました。腕に覚えのある3人の方が、屋根から床まで張り替え作業をして下さり、見違えるようになりました。感謝して大切に使用しましょう。

☆小泉さんご夫妻が編集して下さっていたニュースレターですが、ご家族介護のため編集が困難になりました。3年間、会のために、洗練された素敵なデザインで編集をして頂き、本当にありがとうございました。

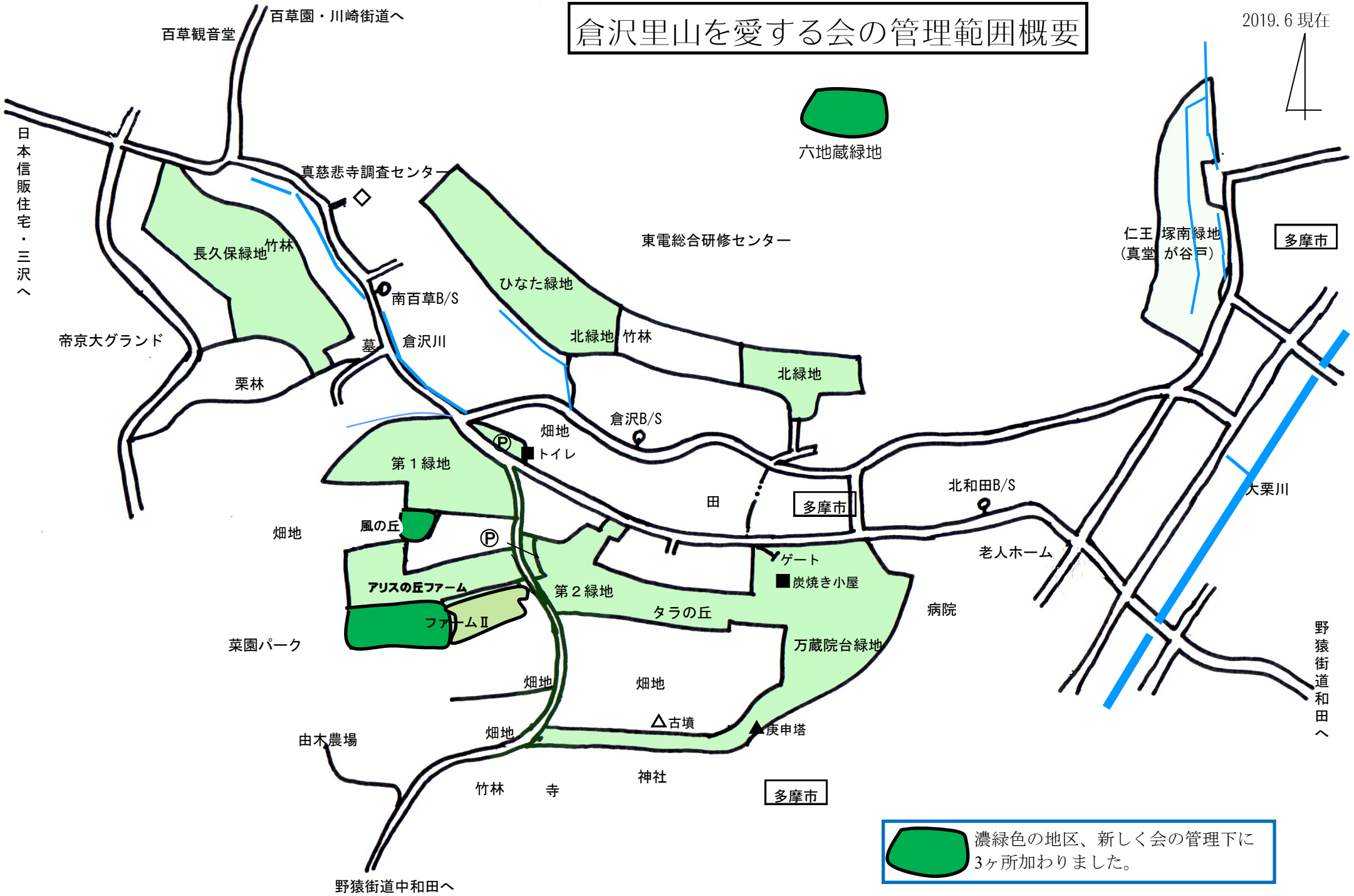
☆今号は事務局の田村はる子が、急遽編集に挑戦しました。継続的に発行できるかは未定です。時々発行出来ればいいのですがプレッシャーに弱いので未定にしておきます。

☆鳥と染めシリーズは、原稿は早くから寄せて頂いてましたが、紙面の都合上今回はお休みとさせていただきました。次号をお楽しみに。

☆畑や周辺の笹は、近隣の迷惑にならぬよう奇麗に切りましょう。葉を取ればだんだん弱っていきます。

倉沢里山を愛する会の管理範囲概要

2019.6 現在



濃緑色の地区、新しく会の管理下に
3ヶ所加わりました。